

めぐみの森だより 2026年 3月号



社会福祉法人 雲柱社 めぐみの森保育園 ☎ 03-3480-4448

昨年2月、縦割り保育への移行のお話をさせていただき1年が経ちました。振り返るとあっという間の1年だったように思います。保護者の方にご協力いただきながら、今日まで準備をすすめていくことができました。残りの1ヶ月も、子どもたち、職員たちと、新しい挑戦にワクワクしながら丁寧に準備を進めていきたいと思っております。

毎週の『ふれんどりーたいむ』の日は、玄関のボードを見て「きょうは〇〇だ。」「〇〇にさんぽにいったよ。」と活動の内容を保護者の方と会話をしている姿がよく見られています。先日、ふれんどりーたいむのコーナー保育の時間に、ゆりぐみで遊んでいる赤グループをのぞきに行きました。水物の遊びをしようとしたひまわりぐみのAさん、「あかとあおのがたりない。」残念ながら何が足りないのか私にはわからなかったため、「ゆりぐみさんに聞いたら。」と伝えると、誰に聞こうか悩んだ末、Bさんに聞きに行きました。「すこしまっててだっ。」少しするとBさんが来てくれ、赤のケースに赤色の水を入れ、「あおいろのみずはこれね。」と教えてくれ、Bさんが続きをしていると、今度はちゅうりっぷぐみのCさんが隣で泡立ての水物の遊びをはじめにきました。するとすぐにBさんがCさんにやり方を教えていました。

そんなさりげない優しさに溢れる場面を見ていたら、漫画「宇宙兄弟」の一コマを思い出しました。宇宙を目指す2人の兄弟が揃って月に行くことが決まり、2人を育てた両親としてインタビューを受けた父が、子どもの頃、2人が鎌倉から京都まで、自転車で旅したある夏の思い出を語ります。そのサイクリングの途中、日も暮れて真っ暗の中、弟の日々人のライトが電池切れで消えるアクシデントがありましたが、それに気づいた兄の六太がライトを前方に向けて、弟の足元を後ろからずっと照らしてやっていた。日々人もそのことに気づいたのか、兄がついてこられるスピードに合わせて走っていた。あの夏の兄弟の姿勢のまま何かを成し遂げてくれれば、親として何も言うことはないのだと。偉業を成し遂げる世界的な注目よりも、相手を思いやる優しさの方が大切だと教えられる場面でした。

“優しさ”に気づくのもまた“優しさ”だ。そんな言葉でこの場面は締めくくられていました。これから始はじまる縦割り保育では、「できている、できてない。」ではなく、こんな場面のように、優しさに溢れ、年齢に関係なくお互いを思いやり助け合うことのできる日々となるように、保護者の方にご協力をいただきながら、子どもたち、職員たちと丁寧に積み重ねていきたいと思っております。

記：園長 藤本 紘子



今月のおすすめ



漫画『宇宙兄弟』

2007年より『モーニング』(講談社)にて連載開始。

子どもの頃から宇宙に憧れを抱いていた兄弟。弟の日々人は早々、その夢に向かって突き進んでいきます。兄の六太は、違う仕事をしていましたが、30歳を超えてから「宇宙飛行士になりたい」という夢に挑戦します。そんな2人を中心に織りなす人間ドラマが最高で、2人を育てた味のある両親の登場場面が特に好きです。実は以前にも巻頭言で、こちらの漫画の場面を紹介しているぐらいのお気に入りです。ぜひ読んでみてください。

[宇宙兄弟とは | 『宇宙兄弟』公式サイト](#)

